

第1回 物流革新に受けたデジタル式運行記録計の普及促進に関する検討会 議事概要

【日時】令和6年2月28日（水）10:00～12:00

事務局等から資料を説明した後、意見交換を行った。参加者からの主な発言は以下の通り。

デジタコの導入の現状

- デジタコは複数社が製造しており、価格帯も様々である。高機能タイプからベーシックタイプまで、顧客ニーズに合わせて様々なデジタコが提供されている。
- 車種によってはデジタコを標準装備している。運送事業者のニーズ実態に応じて、アナタコとデジタコのいずれかを標準装備（オプション選択で変更可能）とするか決定している。
- アナタコを装着している顧客に対して、予算に応じて機能を限定したデジタコを提案することがある。
- 昨年実施されたデジタコの搭載率アンケートについてはウェブによるものなので、ある程度デジタル環境が整っている事業者が回答しており、小規模事業者の実情は反映されていない可能性があるのではないか。
- 小規模事業者においてアナタコからデジタコに移行していない理由についてより分析をした方がいいのではないか。
 - アンケート項目について委員の方々と事前に調整をした上で、改めてトラック事業者に対するアンケートを実施させていただきたい。

デジタコを普及させる対象

- 車両台数の少ない小規模事業者は、デジタコを使わずとも十分に管理できると考えているのではないか。また、元請けである大規模事業者はデジタコへの投資が可能であると思うが、多重下請けという業界構造の中で下請けとなっている小規模事業者は投資が厳しいのではないか。業界の実情を踏まえて検討してほしい。
- 今後、物流業界において一層のデジタル化が必須であり、国としても業界のデジタル化を掲げている。一方で、小規模事業者が運行管理・労務管理を行う上でアナタコを好む者がいるという点は注目すべきことである。事業者の規模をどう考えるか今後示してほしい。
- 運行管理者試験をデジタル化した際、小規模事業者の対応が懸念されたが、業界団体等がサポートした結果、問題なく運用することができている。また、事業者の規模によらず荷主との関係はあることから、サポート体制を構築したうえで小規模事業者においてもデジタル化を推進することが必要ではないか。
 - デジタコの普及を拡大し、最終的には義務化を進めていくことは政策パッ

ケージに盛り込まれている。その意味では、普及を拡大していくためにはまだ普及していない層への対応が重要である。小規模事業者の実情を含め改めて調査し、普及拡大にあたっての課題を明確にしていきたい。

デジタコのメリット・普及策

- デジタコはアナタコより安く製造が可能と考えられるため、経済合理性の観点で自然と普及が図られるのではないかと。ただし、価格の低下だけが進むことのないよう、運行管理の観点のみならず、データの収集によって荷主にも裨益する付加価値をデジタコに見出すことが必要である。
- 荷主との交渉材料に説得力を持たせるためには、労働時間（荷待ち時間や積み下ろし時間を含む）を可視化する必要があるが、アナタコでは対応ができない。また、休憩場所や時間の記録についても、（GPS 機能搭載の）デジタコにより正確性を担保することができると考えている。
- デジタコの普及拡大に向けては、日報の作成に便利である等、事業者がメリットを感じた事例を収集し、周知していくことがいいのではないかと。また、車両に搭載されている様々なデジタル情報機能が、デジタコの機能に包含されている仕様もある。
 - デジタコの普及は、輸送の安全確保を主目的としているが、物流の労働問題や環境問題などの解決、生産性向上にも繋がるため、その点も含めメリット・普及策を考えていきたいと思う。
- 本検討会のタイトルが「デジタル式“運行記録計”の普及」なのか、「デジタル式“運行記録”の普及」なのかもポイントである。機器にどこまでこだわるかも今後のテーマと考えられる。

以上